24

『重訂解体新書』所引の『物理小識』について

陶　恵　寧

漢籍『物理小識』が『解体新書』、『重訂解体新書』の翻訳への影響に関する研究は日中ともあまり知られていない。『重訂解体新書』所引する中国書籍の研究の第二報として、『物理小識』とその著者方以智について考察した、その結果を報告する。

一、方以智と『物理小識』

方以智（一六一一～七一）、字は密之、号は曼公。彼は中国明代の哲学者で名高く、学術界にも高く評価された。『物理小識』は方以智が百科全書の雛型として著し、彼が逝去した後、息子の中通によって刊行された著作であり、計十二巻からなる。書中に動物、植物、鉱産物、物理、化学、医薬などの知識を記録（紹介）した。巻二の「人身類」は人体の解剖生理、臓象経絡を述べた時、西洋医学の知識を引用している。

方以智はイエズス会宣教師の影響で西洋の宗教書籍を読んだため、西洋医学の解剖学、神経学、生理学の知識に触れた。中国初期中西彙通派の代表者の一人と言われている。彼に大きな影響を与えたのはドイツ人宣教師湯若望の『主制群徴』である。

二、『重訂解体新書』所引の『物理小識』

大槻玄沢が『重訂解体新書』を翻訳するとき、『物理小識』を引用したが、その殆どは『主制群徴』の西洋医学の知識であった。

ここで、大槻玄沢の脳と神経の解剖生理機能に関する引用と論述の例を挙げて説明しよう。

①引用　西洋医学の知識をそのまま引用した。例えば、「第脳距身遠不及引筋以達百肢復得頸膂髄連脳為一因偏及焉」（脳に司られた身体の感覚機能、運動機能）、「導気于五官（按嗅神経聴神経鑒神経舌神経等也）。或令之動。或令之覚」（神経が五官を支配し、その運動と感覚を司る）、「筋之体（按筋者神経也）瓤其裏。皮其表」（神経の解剖構造）

②注釈　大槻玄沢が分かりにくい内容を理解しやすく

するために、簡潔な言葉で説明した。例えば、方以智の「脳散動覚之気厥用在筋」（脳の運動機能が筋にある）の記載に対して、大槻玄沢が「筋」とは神経であることをはっきり指摘した。「脳之皮分内外層内柔而外堅」に対して、大槻玄沢が王宏翰の見解（脳の髄が二層の皮で包まれた）を引用して、これを厚と薄の二枚の脳膜と指摘した。

③訂正　『主制群徴』の誤ったところを大槻玄沢が率直に修正した。原文の「筋自脳出者六偶」に対して、大槻玄沢が「六」は「十」の誤りで、正しいのは「十対」と修正した。王宏翰の『医学原始』は大槻玄沢に引用される数が一番多い中国医書であるが、大槻玄沢が『物理小識』の正しい論述で、王宏翰の誤りを修正したこともある。「脊髄」を説明するとき、方以智の「従脊髄出筋三十偶」の記載に対して、「蓋伝西説。而所録也」と判断したが、王宏翰の「髄之後。生脊骨之髄於背。又於脊骨。生二十四双之筋」の論述に対して、大槻玄沢がこれは間違ったもので、方以智の見解は正しいと明言した。

三、考　察

方以智の『物理小識』は王宏翰の『医学原始』と並び、大槻玄沢に非常に重視されている中国書籍である。『物理小識』に見た西洋医学の知識がヨーロッパでは中世の知識であるが、中国にとって未知のものであった。方以智の「是霊素所未発。故存以備引触」（これらの洋学知識は従来の中国医学『素問』、『霊枢』に記載されていないので、抄録して参考とする）の認識は、中国初期の中西彙通思想を反映したものである。

大槻玄沢が『重訂解体新書』を翻訳するとき、中国の医学書だけではなく、『物理小識』のような非医学書をも重視し、引用した。引用又は原文引用、注釈、訂正の三種の方式が認められた。

（順天堂大学医学部医史学研究室）